

R6年度 美術館評価調書

A 優れた作品の収集と適切な保管

帯広美術館

【基本的運営方針】

道東ゆかりの代表的な作家・作品及び国内外の版画やポスターを中心として近現代のプリントアート、並びに西洋の風景画、風俗画を収集する。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
優れたコレクションの形成	・寄贈の申し出のあった国内外の版画などプリントアートの作品の調査を引き続き行い、情報を収集したうえで、収集方針に基づく作品を収集する。	・国内作家について作品の資料収集と調査を進め、寄贈申し入れがあった8点の作品について、受入れのための検討会議を開催した。
所蔵作品の適切な保管	・所蔵品データベースの整備を進める。 ・日々の観察、記録、整理清掃を重視し、展示室や収蔵庫の適切な保管環境を維持する。	・収蔵品データベースの整備のため、作品の再撮影を行いデジタルデータの充実に努めた。 ・作家・作品解説の英語翻訳を行い、多言語化を進展させた。 ・収蔵庫および展示室の定期的な観察、記録、整理清掃を徹底した。
コレクションの効果的な活用	・休館中もコレクションを効果的に活用しながら、当館独自のオンラインアート教室事業などを実施する。 ・新聞や雑誌への記事掲載によりコレクションを紹介し、来館者の増につなげる。	・コレクション展を開催し作品への認知度を高めるとともに、特別展においては図録を発行し、美術館の調査研究の成果をまとめ、作品理解を深める一助とした。 ・学校や社会教育施設に対してオンラインアート教室を実施し、コレクションとアートカードの活用に努めた。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]					今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値 (a)		実績値 (b)	達成率 (b/a)	指標の判定	項目評価	総合評価		
			設定の考え方								成果・課題
優れたコレクションの形成	収集方針に基づく収集活動 [定性]	-	-	-	-	-	①	b	【成果】 ・作品8点の受入により、コレクションの柱である「プリントアート」が充実した。	B	・次年度以降もコレクションの調査研究を進めるとともに、さらにコレクション展等で活用していく。 ・収蔵庫の清掃や温湿度管理の徹底など、IPMの考え方を重視した対策を継続する。
所蔵作品の適切な保管	所蔵品データベースの整備率	100.0%	100%	作品を収蔵した翌年度、速やかに整備する	100.0%	100.0%	①	a	【成果】 ・適切な維持管理のもと、展示室および収蔵庫の環境の変化に即時に対応し、文化財害虫の増加を抑制することができた。		
	適切な保管環境の維持と所蔵作品の計画的な修復 [定性]	-	-	-	-	-	①				
コレクションの効果的な活用	コレクションの活用状況 [定性]	-	-	-	-	-	①	b	【成果】 ・コレクション展を4回開催し、うち特別展枠2件については図録を発行した。		

R6年度 美術館評価調書

B 多彩で特色ある展示活動の充実

帯広美術館

【基本的運営方針】

当館の収蔵作品を計画的に展示し、また国内外の優れた美術品を幅広く紹介する特別展を開催するとともに、他の道立美術館と連携し、その所蔵品を紹介する。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
多様なニーズに応える展示会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の優れた美術を紹介する展示会、コレクションを幅広く紹介する展示会、計3本の特別展を開催し、来館者の層を広げる。 ・4ヶ月間の工事休館中にも、オンラインアート教室事業等を推進し、美術に親しむ機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「写真展 星野道夫 悠久の時を旅する」を開催し、自然写真愛好家の多い道東において、アラスカを取材した星野の壮大な作品に幅広い層から高い関心が寄せられた。 ・コレクション展では、収蔵作品活用に加え、ギャラリートツアーや特別展セミナー、図録の発行を行い、改めて作品への理解を深める貴重な機会となった。
観覧者拡充のための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインアート教室事業等を通じて学校との連携を深め、観覧者に占める児童生徒の割合を増やす。 ・各種広報媒体やSNS等を活用し、幅広い層に情報提供する。 ・リモートミュージアムにより開催中の展示会を紹介する。 ・コンサート等のイベントを開催し、鑑賞以外の美術館の楽しみ方を提供する。 ・近隣の社会教育施設や商業施設に重点的に広報活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインアート教室を実施（14回）し、学校との連携を強めた。 ・リモートミュージアムにより、開催中の展示会「帯広美術館コレクションⅠ」を紹介した（1件） ・コンサートを開催（2件）し、幅広い楽しみ方を提供した。
館外における鑑賞機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・他館や他施設へのコレクション貸出を積極的に行う。 ・他館や他施設からの解説活動の要請に応じる。 ・美術館外での解説活動について周知し、要請に応じる。 ・オンラインアート教室を通して遠隔地の住民に鑑賞機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館外での解説活動の要請に応じ、館外での解説活動を2回、学校での鑑賞授業を2回行った ・オンラインアート教室を実施し、管外の学校にも鑑賞機会を提供した。（10回）

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]				評価 [CHECK]					今後の対応方向 [ACTION]
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価		総合評価	
			設定の考え方					成果・課題			
多様なニーズに応える展示会の開催	展示会の観覧者数（※展示会毎の内訳は下表のとおり）	63,490	37,585	近年の同等程度の展示会を参考に算出	38,865	103.4%	①	b	【課題】 ・館の修繕工事に伴い、他館からの作品の貸借が難しく、多様な内容の展示会の開催が困難だった。次年度以降の企画検討の課題としたい。	B	・来館者数や満足度などのデータを参照し、引き続き多様なニーズに応える展示会の開催を検討する。 ・収蔵作品の調査研究を進め、多角的な活用を検討するとともに、広く美術館活動を周知して、観覧者の拡充に努める。
	観覧者の満足度	95.1%	100.0%	100%を目指す	97.4%	97.4%	②				
観覧者拡充のための工夫	観覧者に占めるリピーターの割合	42.6%	47.4%	過去5年間の最大値（1年以内の再来館者）	33.7%	71.1%	④	c	【成果】 ・SNSやリモートミュージアム(youtube)、オンラインアート教室などインターネット資源の活用により、より幅広い層の市民へのアプローチを図った。 【課題】 ・工事休館に伴い、学校の団体観覧の件数が減少したことにより、観覧者に占める児童生徒数の割合が低下した。		
	観覧者に占める児童生徒の割合	13.8%	17.4%	過去5年間の平均	10.6%	60.9%	④				
	展示の企画構成やPR等の工夫 [定性]	—	—	—	—	—	①				
館外における鑑賞機会の提供	館外における展示活動の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	b	【成果】 ・オンラインアート教室や美術館外の解説活動の充実により、広く鑑賞機会を提供するとともに、美術館の活動の積極的な周知に取り組んだ。		

【展示会開催状況】

区分	展示会名	計 画				実 績				特記事項	
		会期	開催日数	観覧者見込数(うち児童生徒)	1日当たり観覧者数	会期	開催日数	観覧者数(うち児童生徒)	1日当たり観覧者数		
常設展	世界の版画から	4月20日～6月30日	72	8,856 (1,541)	123	4月20日～6月30日	72	9,280 (2,225)	129		
	帯広美術館コレクション選Ⅱ	11月1日～12月22日	52	6,396 (1,113)	123	11月1日～12月22日	52	2,396 (333)	46		
	帯広美術館コレクション選Ⅳ	1月11日～3月16日	65	7,995 (1,391)	123	1月11日～3月16日	65	2,104 (299)	32		
	常設展計	—	189	23,247 (4,045)	123	—	189	13,780 (2,857)	73		
特別展	館単独主催展	帯広美術館コレクション選Ⅰ	11月1日～12月22日	52	2,210 (385)	43	11月1日～12月22日	52	2,491 (314)	48	
		帯広美術館コレクション選Ⅲ	1月11日～3月16日	65	7,812 (1,359)	120	1月11日～3月16日	65	2,368 (273)	36	
	実行委員会展	写真展 星野道夫 悠久の時を旅する	4月20日～6月30日	72	4,316 (751)	60	4月20日～6月30日	72	20,226 (692)	281	
	貸館展										
	特別展計	—	189	14,338 (2,495)	76	—	189	25,085 (1,279)	133		
	合 計	—	189	37,585 (6,540)	199	—	189	38,865 (4,136)	206		

R6年度 美術館評価調書

C 学習の場と情報提供の充実

帯広美術館

【基本的運営方針】

講演会、講座、解説、ワークショップ、子ども向け事業等の教育普及活動、出版活動並びに図書資料閲覧や情報資料の提供等の事業を推進する。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
教育普及活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 多彩な教育普及プログラムを企画実施する。 可能な範囲で、多くの人が参加できるように実施方法を工夫する。 教育普及プログラム参加者にアンケート調査を行い、内容や実施方法について状況を確認し、改善の目安とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 所蔵作家による講演や、地域の作家によるワークショップなど、多彩なプログラムを企画した。 より参加しやすい体制とするため、整理券配布や事前申し込み制、先着自由参加など、各事業に応じて受付体制を工夫した。
情報提供の充実	<ul style="list-style-type: none"> 図書コーナーに配架する図書の選定を見直し、整理を行う。 ホームページ、フェイスブックの更新を展覧会、イベントの開催ごとに行う。 新聞や情報誌への記事投稿、テレビやラジオの出演により情報発信を行う。 複数のSNSプラットフォームを使用した情報発信を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 配架図書を整理すると共に、新刊を購入するなどの充実を図った。 これまでのFacebookに加え、7月に「X」(旧ツイッター)を開設し、情報発信のプラットフォームを充実させた。 より充実した情報発信を図るために「帯広美術館SNS運営チーム」を設置し、展覧会やイベント作品解説などの情報を積極的に発信した。 新聞に連載記事を投稿するなど、情報発信を行った。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]				今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価		総合評価
			設定の考え方							
教育普及活動の充実	教育普及プログラムの実施件数	67	75	過去5年間の平均値	81	108.0%	①	b	【成果】 ・開催展覧会の内容に即したイベントを企画した結果、幅広い層に来館の動機付けを行うことができた。 ・コレクションについて様々な視点からの事業を行った結果、収蔵作品の認知度と利用者の満足度を高めることができた。(アンケート調査の結果より)	B
	教育普及プログラムの参加者数	10,497	7,875	過去5年間の平均値	7,039	89.4%	③			
	教育普及プログラムの企画・実施状況 [定性]	-	-	-	-	-	①			
情報提供の充実	A R S、図書コーナーの利用件数	127	189	開館日数×1件	173	91.5%	②	c	【成果】 ・新刊の購入、受入等により図書コーナーに配架する資料の更新を図ることができた。 ・外部団体と連携して広報活動を行った結果、予想を上回る来館者があり、幅広い層へ美術館活動をアピールすることができた。 ・新たに「X」を開設するとともに、SNS運営チームにおいて、投稿のスケジュールや内容をあらかじめ検討・計画することで、適時の情報発信を行うことができた。 【課題】 ・HPのアクセス件数は、前年度実績を上回ったものの、臨時休館の影響により、目標値を達成できなかった。 ・子どもを対象としたプログラムは一定数の利用者があり、今後も周知方法の充実や内容の更新に努める必要がある。	B
	利用しやすい図書・資料コーナーの整備	-	-	-	-	-	①			
	HPアクセス件数	162,038	223,141	過去5年間の最高値	186,754	83.7%	③			
	S N Sの投稿数	20	132	過去5年間の最高値	132	100.0%	①			
	リモートミュージアムの公開件数	3	3	特別展ごとに作成	1	33.3%	④			
	情報発信の工夫改善 [定性]	-	-	-	-	-	①			

R6年度 美術館評価調書

E 多様な主体との連携・協力による地域の活力向上

帯広美術館

【基本的運営方針】

地域の各種学校、博物館施設、文化団体等との連携をもとに、地域文化の振興と活性化を図る。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
多様な機関との連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> 美術館利用者の拡大を図るため、公園内施設と連携した事業を行う。 ボランティア団体との連携、美術館利用に結びつく事業を提案する。 美術館振興会と連携し、展覧会関連事業やイベントを企画する。 宿泊業者、交通事業者とタイアップしたPRを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> おびひろ氷まつりにおいて、公園内施設（百年記念館、児童会館、みどりと花のセンター）と連携したスタンプラリーを行った。 帯広美術館ボランティア「しらかばの会」と連携し、親子で利用できるキッズ・ミュージアムやワークショップを行った。 帯広美術館振興会と連携し、展覧会関連事業を行うほか、地域イベントへの協賛事業を行った。 交通費とのバック料金の設定（十勝バス、道新観光）、スタンプラリーの実施（NEXCO東日本）、観光情報誌（じゃらん）への掲載など、他業種と連携したPRを行った。
学校等の教育機関との連携・支援	<ul style="list-style-type: none"> 高校生や大学生のボランティアを活用できる事業を実施する。 インターンシップや博物館実習生の受入を積極的に行う。 アートカードの利用促進を図るため、周知方法を工夫する。 社会教育機関と連携したオンラインアート教室を実施する。 キャンパスパートナーシップを有効に活用してもらうため、パートナー館と連携し解説等の事業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校の対話型鑑賞授業に学芸員が講師として関わったほか、総合的な探求の時間における調査に協力するなど、美術館と学校教育の連携を図った。 博物館実習生の受入れを行い、学芸員資格取得者の育成を図った。（4人） 中学校、高等学校のインターンシップ生の受入れを行った（2校、4人）

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]					今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価			総合評価
			設定の考え方					成果・課題			
多様な機関との連携・協力	地域の団体やイベント等と連携した取組の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	b	【成果】 ・館外の施設と連携し、アウトリーチ活動を行うことで、美術館活動の周知につなげた。 ・ボランティア・美術館振興会と連携協力し美術講座やバックヤードツアーを開催し、所蔵作品および美術館機能に対する理解を深めた。 ・工事休館に伴い他館との作品貸借はなかったが、次年度以降の展覧会に所蔵品を活用すべく、他館と相互に協力して調査研究を行っている。	B	
	企業や団体等と連携したPR活動 [定性]	—	—	—	—	—	①				
	道内美術館等との連携・協力の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①				
	ボランティアとの連携・協力の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①				
学校等の教育機関との連携・支援	学校教育と連携した取組の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	c	【成果】 ・高校における鑑賞授業に講師として関わった。また高校生の美術館調査に協力するなどの連携を深めた。 ・目標値の設定はないが、教員を対象とした研修を2回実施し、オンラインアート教室等の美術館活動について情報提供を行うとともに、学校側の情報収集の現状を確認した。 【課題】 ・工事休館のため、学校の団体観覧が減少するなど児童生徒向け鑑賞教室の実績が伸びなかった。 ・キャンパスパートナーシップ制度が、学校にとって、より利用しやすいものとなるよう、本庁において改正の検討に着手しているが、現在のところ結論が出ておらず、利用に向けた働きかけが、停滞している。	B	
	児童生徒向け鑑賞教室（オンラインを含む）の実施件数	44	65	オンライン20回 解説45回	43	66.2%	④				
	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	1	2	働きかけを行い1校増を目指す。	0	0.0%	④				
	教員を対象とした研修の実施状況 [定性]	—	—	—	—	—	①				

R6年度 美術館評価調書

F 安全で快適な滞在環境の提供

帯広美術館

【基本的運営方針】

緑豊かな公園内の文化ゾーンに立地している利点を生かし、芸術文化にふれあう場としてふさわしい環境整備に努め、ホスピタリティあふれる高質な時間と空間を提供する。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
施設の適切な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> 安全保持や環境整備のため、日常的な点検を行い設備管理委託業者と情報を共有する。 7月～10月末まで臨時休館とし、大規模改修工事を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の点検による安全保持のほか、施設設備の補修や修繕を行い、適宜、その状況を委託業者と共有し、適切な施設設備管理に努めた。 7月～10月末まで臨時休館とし、屋根改修工事を行った。 施設高所の点検が行えるよう、高所作業台を導入した。
施設の快適性の向上	<ul style="list-style-type: none"> 公共スペースの什器を計画的に更新する。 アンケートによる意見等を職員及びボランティア団体と共有し、展覧会・事業の運営方法やスタッフの対応を改善する。 職員の研修やガイダンスを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 展覧会毎の来館者の動線を考慮し、適切な場所に休憩スペースを配置するよう努めた。 各展覧会毎に開催日前日に職員及びボランティア団体を対象としたガイダンスを行い、留意事項の共有を図った。 随時、アンケート結果を共有し、展覧会・事業の運営方法改善の参考とした。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]					今後の対応方向 [ACTION]
		前年度実績	目標値 (a)		実績値 (b)	達成率 (b/a)	指標の判定	項目評価 成果・課題	総合評価	
			設定の考え方							
施設の適切な維持管理	施設の安全性確保のための必要な措置の状況 [定性]	-	-	-	-	-	①	b 【成果】 ・高所作業台の導入により、より適切な施設の点検が行えるようになった。 ・エントランス前の点字ブロックの一部に破損が見られたため、樹脂製の物から、耐久性の高いコンクリート製の物に改修した。 ・来館者用車椅子、ベビーカーを配置するとともに、車椅子等の動線に配慮したレイアウトを行っている。	B	・来館者や作品の安全を確保するため、日常的な点検と修繕を継続して行う。 ・関係者とも連携しながら、来館者のホスピタリティの更なる向上を図る。
	誰もが安心して利用できる施設設備の状況 [定性]	-	-	-	-	-	①			
施設の快適性の向上	鑑賞環境に対する満足度	95.6%	100.0%	100%を目指す	96.3%	96.3%	②	b 【成果】 ・ボランティア団体と協力し、これまでの実行委員会展會期中に加え、道単独展の会期中もミュージアムショップにおいてキャッシュレス決済に対応することにより、来館者の利便性向上を図った。 ・こどもファストトラックの取組として、小さなお子様を連れに来館者へ声かけを行い、必要な支援の把握に努めた。	B	
	レストラン・喫茶に対する満足度	87.5%	100.0%	100%を目指す	88.2%	88.2%	③			
	ミュージアムショップに対する満足度	78.8%	100.0%	100%を目指す	88.8%	88.8%	③			
	ボランティアや事業者と協力してのサービス向上に向けた取組の状況 [定性]	-	-	-	-	-	①			
	館内スタッフの対応に対する利用者満足度	92.4%	100.0%	100%を目指す	95.8%	95.8%	②			
ホスピタリティー向上に向けた取組の状況 [定性]	-	-	-	-	-	①				